川井市長の せせらぎトーク

■黒澤収入役を送る■

六月九日に退任された前収入役黒澤善松氏が秘書課長の時代、上京した夜に、赤坂に飲みに行ったことがある。その時にぶらっと寄ったのが「皆美」である。

これは島根県松江にある有名な旅館の出店で、山陰や宍道湖の魚貝類の味は、絶品だとの評価があった。

カウンターに座り、まず岩がきを一つ注文し、ビールを飲んだ。相性が悪い。「なにか美味い日本酒は。」と言ったところ、「これなどいかがでしょうか。」と皆美のブランド名の日本酒を出してきた。

その値段を見て黒澤君、目をむきましたね。「市長、こんなに高い酒を飲んでは絶対にいけません。」と大声で言う。こちらは恥ずかしくてしょうがない。だって隣の人達が面白がって聞き耳をたてるんだもの。

最後には業を煮やして、「うるさい。何も俺がポケットマネーで払うのにお前にぐずぐず言われる筋合いはない。黙れ。」と言ったが、その時に「この黒澤という男、将来絶対に収入役にすべきだ。」と思った。それはケチだからという意味ではない。とにかく仕事に関すれば、市長も何もなく、正論を唱える人間だということが明確に分かったからである。

商工観光課長時代、白石川花火大会の再開に取り組んだ後、彼は昭和五十九年から平成二年まで、企業誘致に専念した。企業誘致は何よりもトップセールスでなければならない。私と一緒に駆け回ったのは、当時商工観光課長から秘書企画課長であった黒澤君であった。

具体的に二人で直接関わり合った企業だけでも、トーキン白石、宮城レース、ワコーエレクトロニクス、日本バイリン、キャニング、古賀オール、青木製作所、ミドリテクノパーク、ソニー白石セミコンダクタと、九つにも及ぶ。それは昭和六十年から平成二年までに、白石に進出してきた十二の企業の、七十五パーセントである。

その後平成二年六月に収入役になった彼は、財政的に素晴らしい発想を展開する。

それは国が進める地域総合整備事業債を存分に活用し、交付税措置されたお金を繰り上げ償還することによって、財政の健全化を図るという、他の市では見られない手法であった。これによって白石市の財政はその運用において、全国でもトップクラスの健全さを維持しているのである。

彼は私が間違った判断をしようとした時に、あるいは感情的になろうとした時に、怒鳴られようが、わめかれようが、徹底して私に反論し続けたものである。その判断は、全て正しかったと思う。

元宮城県知事の山本壮一郎さんの文章に、こんな言葉がある。

「私どもの仕事は、うまくいって当たり前です。（中略）ときには、誤解や心なき批判を招くことがあり、特に政治が絡んでくると、悪意に満ちた中傷もあるのです。私も一人の平凡な人間ですから、本当に抑え難い心中の怒りを感じたことも度々ありました。そんなときには『気に入らぬ　風もあろうに　柳かな』という句を思い浮かべながら、気を静めるのに苦労したこともしばしばでした。」

幸いにも私に天は、一つの句のかわりに、黒澤善松氏を与えてくれた。

みなさんからの素敵な情報を待ってます！

ご活躍を期待しています

ボランティア観光ガイド養成講習会

５月15日から6月26日にかけて、ボランティア観光ガイド養成講習会が行われました。

23名の受講者は、白石の歴史や地名、伝説などの講義や市内各地の史跡や寺院などの現地視察を７回にわたって受講しました。

今後、「ボランティア観光ガイド」として登録された方は、白石城や武家屋敷などでの案内役として、市の観光振興にご活躍されます。

楽しい会話と腹話術

しろいしファミリー・サポート・センター茶話会

５月17日、しろいしファミリー・サポート・センターで茶話会が行われ、センターに登録している会員など約30人が参加しました。

参加者は、お茶やお菓子を食べながら、終始和やかな雰囲気で、子育てに関する話に花を咲かせていました。

また、ロゴス腹話術研究会仙台支部の小片さんと田中さんが「笑いのボランティア」として楽しい腹話術を披露し、会場は笑いに包まれていました。